

第24回 日本ミャンマー豊友会スタディーツアー感想文

平林慧

早いものでスタディーツアーから1ヶ月近く経とうとしています。母に「ミャンマーに行ってみたい？」と声をかけられ、学生生活最後の思い出作りにと軽い気持ちで参加を決めました。出発前、私の心は少し荒んでいました。10月に就活に失敗したことが分かり、卒業試験に追われながらも一度就活・・・身も心も疲れていました。就活も勉強もプライベートも難なくこなす友人が、「羨ましい」を通り越して妬ましく思えたりして、そんな自分の考えにもうざりしていました。出発直前に就活を終え、卒業試験も無事通ったのですが、なんとなく心は晴れないままで「何かが変わればいいな」と思いながらミャンマーに向かいました。ミャンマーに関する知識をほとんど持たぬまま・・・(申し訳ありません)

ミャンマーは人口の87%が仏教徒、約1%はお坊さんで、ほぼ全ての男性が一度は仏門に入る、まさに仏教国。お坊さんが至るところで見られました。そして仏教の教えが多く国民に行き渡っています。「現世で徳を積めば来世を幸せに生きられる」「余裕があれば他人に恵みなさい」という教えがあり、貧しい人でもさらに貧しい人に恵むこともあるのだそうです。ピュアで優しい人が多いと感じたのも、そうした背景があるのかもしれませんが。また、老若男女問わずタナカという化粧品を顔に塗り、ロンゼーという巻きスカートを纏い、そうした独自の文化が見られたことに嬉しく思いました。

このスタディーツアーでは日本兵の慰霊碑、ジャパンハートの病院や、歯科医院、農業施設、保育園、孤児院と色々な所を見学しました。

私は医学生で、将来海外で働いてみたいという気持ちもあり、ジャパンハートの吉岡先生のお話を聞くことができたのはとても嬉しいことでした。先生は「この活動を通してかつて日本兵を助けてくれた名も無きミャンマー人に恩返しをしている。そしてそれが自分の幸せに直結しているからどんなに大変でもやれる」とおっしゃっていました。また「日本の医師は自分たちの医療レベルが高いと思っているが、高いのはテクノロジーであって腕はそんなに良くない。常に世界レベルを意識せよ」というお話では身の引き締まる思いになりました。私は、吉岡先生が途上国で働く医師としてというよりも一人の医師として、常に空間的にも時間的にも大きな視点を持ち、患者さんの良い人生のために全力を捧げようとお考えの本当に素晴らしい人だと思いました。お会い出来て本当に良かったと思います。

もう1つ印象的だったことですが、保育園の開園式に立ち合わせて頂いた際になるほど思ったことがあります。先進国が途上国を支援する時、現地の人々が具体的にどのような利益を得られるのかということを知りたかったのですが、例えば保育園を作れば両親が農業で家を離れた時に残された幼い子どもが起こす火傷の事故が減るといったことがあると教えて頂きました。途上国に先進国の価値観を押し付け、ただ箱を作る支援ではなくて、本

当に求められている支援が行われ長く続いてほしいと思いました。

さて幸運なことに大きく体調を崩すことなく日本に帰ってくることができました。出発する前に比べて自然と心が穏やかです。今まで自分のためだけに悩み過ぎていたのだと気づきました。周りの人を幸せにすることができたら、自分の心も満たされるのだと思います。来年から医師として働く予定ですが、ミャンマーの仏教の教えや吉岡先生の言葉はきっと力になります。患者さんの心に寄り添える優しい医師になりたいと思います。

このツアーでは一緒に参加させて頂いた皆様からも沢山のことを学ばせて頂きました。近藤会長のパワフルな行動力を私も見習いたいと思いました。皆様、本当にありがとうございました。今後何かの機会がありましたらどうぞ宜しくお願い致します。